



2026年2月9日

各位

会社名



代表者名 代表取締役社長 石川 達也
(スタンダード市場・札証コード、5380)

問合せ先 取締役管理部長 早川 正

電 話 0566-53-2631 (代表)

第2四半期(中間期)業績予想と実績との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

2025年11月7日に公表いたしました2026年6月期第2四半期(中間期)業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

併せて、当該実績を踏まえて2026年6月期通期業績予想も下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2026年6月期第2四半期(中間期)個別業績予想と実績との差異 (2025年7月1日~2025年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,254	9	23	6	8.48
実績値(B)	2,215	△16	△6	△10	△14.79
増減額(B-A)	△39	△25	△29	△16	
増減率(%)	△1.7	-	-	-	
(ご参考) 前第2四半期(中間期)実績 (2025年6月期第2四半期)	2,436	72	72	50	71.68

2. 2026年6月期通期個別業績予想の修正 (2025年7月1日~2026年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,504	49	56	30	42.40
今回発表予想(B)	4,330	2	4	△7	△9.89
増減額(B-A)	△174	△47	△52	△37	
増減率(%)	△3.9	△95.9	△92.9	-	
(ご参考) 前期実績 (2025年6月期)	4,627	105	104	70	99.06

3. 差異及び業績予想修正の理由

(第2四半期中間期間業績予想と実績の差異)

売上高につきましては、円安の進行や資材・エネルギー価格の高止まりを背景とした住宅価格の上昇に加え、住宅ローン金利の上昇懸念などもあり、国土交通省が発表している建築着工統計調査報告において、持家着工戸数は9カ月連続で前年同月を下回るなど、低調な推移が続いております。その結果、予想よりも減収の売上高 2,215 百万円となりました。

利益面につきましては、製造コスト上昇などに対して、製造工程管理の強化や効率生産を行ってまいりました。また、円安による商品の仕入コスト増加等に対しては、販売価格への転嫁も行っていました。しかし、売上減少の影響が大きく、いずれも前回発表予想を下回る営業損失 16 百万円、経常損失 6 百万円、中間純損失 10 百万円となりました。

(通期業績予想の修正)

第2四半期中間期間の業況を踏まえ、業績予想を修正いたします。

※上記の予想は、本資料発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる可能性があります。

以 上